
・ ・ ・ リリなのの世界に転生？リリなのってなに？

アーク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

・・・リリなのの世界に転生？リリなのってなに？

【Nコード】

N5807X

【作者名】

アーク

【あらすじ】

神様のミスで死んでしまった主人公は魔法がある世界に転生させてもらった・・・。

S t s に突入！！

つというテンプレですが超亀更新＋文才無い作者が執筆するのは×ドラクエお楽しみください！

ってか原作知識ないという設定がどっか吹っ飛んでいった気がする

んだよね

ぶろろーぐ(前書き)

初投稿です

ぶるるーぐ

?????side

・・・目の前に土下座している男の人がいます。

男の人「本当に申し訳ないです。」

・・・いやだからなにがどうしたんですか？そしてここどこですか？

男の人「ここは転生の中で、俺は転生を司る神なんだけど俺のミスで書類が燃えちゃって・・・、でその燃えた書類にかかれてた人が死んでしまい、その死んでしまった人があなたなんです。」

へえー神様・・・って私の書類が燃えたってことは・・・？

・・・ってことは私死んだの？

神「はい・・・、でお詫びにあなたを転生させたいんですが、いかがですか？」

転生か・・・元の世界に転生できるのかな？

「……うーん、前世に未練ないし……まあ転生しますよ。ついでにミスは誰でもあることですし許します。というか元の世界に転生はできるんですか？」

神「元の世界には無理ですが、元の世界にあった、ゲーム、アニメなどの世界には転生ができます。」

「……んーじゃあランダムでいいので魔法のある世界に転生させてください。魔法を使ってみたかったんですね。」

神「あ、お願いを何個かなえられますがどうします？」

「……お願いかぁ……、ならドラゴンクエストの呪文と特技を拾得できるようにしてください。」

「というか私魔法って言ってもドラゴンクエストのしか知らないんだけどねえ……」

神「はい、分かりました……できましたよ。あ、それと前世と同じ性別の女になりますから。」

女「なら前世も同じだし多分戸惑うことはないよね？」

「……はい」

神「じゃあ、逝ってらっしゃい。」

- - え？なんか字が違わくないですか？

パカッ！

なんか浮遊感が・・・

- - きゃあああああああ・・・！！

神「さて転生した世界は・・・リリカルなのはの世界か・・・ってあそこってデバイスないと魔法使うの難しいよね・・・？あの子が5歳になつたら手紙と一緒にデバイスを送りますか。」

神「他の転生者はもっと欲張りなこといつていたけど、あの子は欲がなかったし、高性能なデバイスをつくりますか！」

主人公設定

主人公

名前：ファイア・クローディア

性別：女

年齢：19歳（Strikers時）

身長：157cm

体重：よ「いつぺん死ぬ？」ゴメンナサイモウシマセン

容姿：金髪碧眼、腰くらいある長さの髪をポニーテールにしてまとめている

魔力量：SSS（リミッターつけているのでいつもはS）

魔力光：青色

使用術式：スクウェア式 形状ロッド、ソード、

使用デバイス：ヘレーナ（愛称レナ）スクウェア式専用インテリジェントデバイス、魔法陣は円の中に三角形がある魔法陣

膨大な演算が必要な魔法（最上級呪文など）があるのでスパコン並みに演算能力がある。

使用魔法：攻撃呪文 メラ メラミ メラゾーマ メラガイアー
(フルドライブ時)

イド(フルドライブ時) ギラ ベギラマ ベギラゴン ギラグレ

ランデ(フルドライブ時) イオ イオラ イオナズン イオグ

デドス(フルドライブ時) ヒヤド ヒヤダルコ マヒヤド マヒヤ

チヨ(フルドライブ時) バギ バギマ バギクロス バギムー

デイン(フルドライブ時) デイン ライデイン ギガデイン ジゴ

ドン(フルドライブ時) ドルマ ドルクマ ドルモア ドルマ

回復呪文 ホイミ ベホイミ ベホイム ベホマラー
リホイミ(持続的に体力回復)

補助呪文 スカラ スクルト ピオラ ピリオム バイ
キルト バイシオン

+メダパニ) ラリホー マジックバリア トリック(マヌーサ
ラリホーマ マホトーン

そのほか ルーラ リメミト

特技 火炎斬り(メラ) 氷結斬り(ヒヤド) 真空斬
り(バギ・ドルマ)

稲妻斬り(ギラ・デイン) ホーリーエッジ(イ
オ・デイン)

ダークスパイク（ドルマ） 烈破斬り（イオ）

以上7つは各対応する属性呪文を宿してきりつける

ギガスラッシュ 決戦用剣技？

ジゴスパーク 火炎竜 トルネード 津波（発動

条件：水上のみ）

性格：礼儀正しい女の子、基本的に目上&年上&初対面の人には敬語
背が小さいことを少し気にしている

前世では英語がダメダメだったためレナとはじめての会話の
時にテンパった経歴あり

特技と特技の使用属性はDQMJ2を参考にしています

主人公設定（後書き）

というわけで設定を投稿。

ファイア「決断早かったね。」

まあねー感想がこなかったし自分で決めちゃった

ファイア「というかまだ本編始まってないのにレナの情報載せちゃっていいの？」

いんでね？転生後ちよろつとやったら5歳までキンクリするし

ファイア「まあいいけど・・・あんまり亀だと・・・分かるよね？」

善処しますからその膨大な魔力をこっち向けないでくださいお願いします

ファイアちゃんメてー？

ファイア「はいはい・・・。こんなダメ作者でも温かい目で見守ってください。後感想書いてあげると作者が大喜びします。」

「話 をてをてどの世界に転生したんだろう？」

Fire side

・・・うう・・・神様のほかあ・・・

「???」でかしたぞ、ディアナ!」

うるさいなあ・・・

目を開けてみるとおっさんのドアップの顔が

「ファイ」おぎやあああああああ! (きゃあああああああ!)

おぎやああって赤ん坊からですか・・・これは授乳とかおしめ変えてもらってという羞恥プレイフラグがノノノ

「ファイ」あなたにファイが驚いてますよ？」

「???」まあいいだろ、ディアナ。それよりファイはこの子の名前かい？」

デイ「ええ、この子の名前はファイア、ファイア・クローディアよ。」

私の今世の名前はファイア・クローディアか。それよりもこの世界はどんな世界なんだろう？

神様にドラクエの魔法が使えるようにしてくれとは言ったからドラクエの魔法は使えるだろうけど、この世界の魔法もつかいたいなあ

・・・ピピッ

ん？何の音だろう？

????「ちっ、事件か。もう少しわが娘と接していききたいのに・・・」

デイ「がんばってくださいね。レイン・クローディア執務官。」

レイ「ああ、いつてくる。」

お父さんが仕事に行きたみたいです・・・そういえばおなかすきました・・・

デイ「ファイア、おなかすいたでしょう？ご飯ですよ。」

さすがお母さんいいタイミング・・・ってなんで服をはだけさせて・・・って授乳ですかそうですか／＼／

ディ「いっぱいたべて早く大きくなってね。」

・・・あうゝ恥ずかしい・・・／＼／

おなかいっぱいになったら眠くなってきた・・・まあ私赤ん坊だからしかたないか・・・

ディ「あらあらおねむなのねえ。おやすみなさいフィア。」

おやすみなさい、お母さんzzzz

一話 さてさてこの世界に転生したんだろう？（後書き）

フィ「亀＋文才なしの作者ががんばっているようです。」

フィアひどいよ・・・

フィ「そんなこといつてる暇があったらさっさと書く！まだ1000文字も突破すらしてないんだからね！」

ど、努力します。ともかく長文になるように努力していきます。

次回は時間を5年ぐらい吹っ飛ばします。

幼児期って正直何書けばいいか分からないですハイ。

じゃあじk「次回もよろしくね！」台詞取られた！

二話 デバイス登場（前書き）

1000文字突破！・・・ほんのちょっとだけだけどw

二話 デバイス登場

Fire side

さて転生して5年が経ちました。理由は作者が幼児期に何かけばい
いかららん！とかほざいたせいですが

- - ころら！メタなことというなw

・・・はい。

- - しぶしぶだなおい・・・

で、今何やってるのかというところ・・・

朝起きたら青い六角形の宝石が浮いてます。

とりあえず起きますか・・・。

- - -カサツ

ん？なんだろう？これは手紙かな？

なにになに・・・

神「5歳の誕生日おめでとう。君が転生した世界は魔法少女リリカルなのはの時代だよ。ドラゴンクエストの魔法は君の先祖が持っていたのが先祖帰りで君に身についたってことになってるからね。それとその魔法の術式名はスクウェア式で目の前に浮いてる宝石はデバイスっていう武器だから。話しかければ起動するはずだからがんばってね。あ、あとたぶん原作を知らないと思うけど原作介入してもらおうからね。今君がいる世界は原作の平行世界だから自分のすきな様に、納得のいく人生を送ってね。」

魔法少女リリカルなのは・・・？友達から聞いたことあるような気がするけど覚えがないなあ

それよりもデバイスっていう武器が気になるね。

話しかければ起動するみたいだけど・・・

ファイア「お〜い。」

??>> Good morning master.<<

・・・あう〜、英語分からないよ・・・

私があたふたしてるとデバイスが、

??>>The language in the world
which is now is under check. I
sets to Japanese・・・Complete.
おはようございますマスター。<<

ファイア「お、おはよう。」

レナ>>私の名前はヘレーナ、愛称はレナとして登録されています。
そして私の正式名称はスクウェア式インテリジェントデバイスです。
よろしく願いますねマスター。<<

ファイア「よろしくね?レナ。」

レナ>>はい。待機状態はペンダントとして携帯してください。<<

ファイア「分かった。」

おなががすいたのでリビングに行くとお父さんとお母さんがイチヤイチヤしてた

ファイア「おはよう、お父さん、お母さん。」

デイ「おはようファイア。ご飯出来てるわよ。」

レイ「おはようファイア。・・・ん？その胸元のペンダントは倉においてあった奴じゃないか。どうしたんだい？」

ファイア「朝起きたら目の前に浮いていたの。それで私がレナ・・・このペンダントはデバイスでね、レナのマスターになったの。それでレナから聞いたんだけど、私の魔法はスクウェア式って言って、先祖帰りで私の魔法の力になったみたいなんだけど何か知ってる？」

レナ「正式名称はヘレーナです。よろしくお願いします。<<

デイ「よろしくね？それと多分その術式は私の家計の先祖かもね。私の実家に文献が置いてあって幼い頃に見た記憶があるから。」

ファイア「お母さん、その文献って私も見れる？スクウェア式について

てもっと知りたいし。」

デイ「んーたぶん実家に連絡すれば見れるかも？連絡とって見るわね。」

ファイア「連絡取れたら教えてね！・・・おなかすいたしご飯食べよう？」

デイ「じゃあ、朝ご飯食べましょうか。」

三人「いただきます。」

二話 デバイス登場（後書き）

結構がんばってるんじゃない？私W

ファイア「最初だけ……とかだったら……分かってるよね？」

はい！精進させていただきます！

ファイア「まったく……でもこんな駄文を読んでいただきありがとうございます。これからも温かく見守ってやってください。」

次はデバイスの起動と主人公の身体能力とかを予定しています。

ファイア「ではまた次回で！」

三話 初めての魔法（前書き）

やっと投稿できた！

フィア「なにやってたの？答えによつては・・・」(ニッコツ)

プロットデータが飛びまして打ち直してました！（ガクガクブルブル

フィア「まあいいか。それでは本編どうぞー！」

三話 初めての魔法

sideファイア

昼過ぎに自分の部屋でレナと話しているとふと思ったことを口にしてみた

ファイア「ねー、私ってドラクエの魔法使えるんだよね？」

レナ>>はいそうですが、どうかしましたか？<<

ファイア「つかってみたい!!」

レナ>>一応私を起動しなくても使えますが魔力効率がものすごく悪いので起動を先にしましょうか。<<

ファイア「はい。」

レナ>>では私の後に続いて起動パスワードを唱えてください。

古より続く魔法使いの血に誓い、<<

ファイア「えと・・・古より続く魔法使いの血に誓い、」

レナ>>自らの大切なものを守り抜く力をここに、<<

ファイア「自らの大切なものを守り抜く力をここに!」

レナ・ファイア>>「ヘレーナセットアップ!」<<

足元から青い光がでてきて私を囲んで・・・、服装が変わった!?

レナ>>バリアジャケットは私が設定しました。<<

へえこれがバリアジャケット・・・私の今の服装は、裾が膝上にある白いドレスっぽいものに足首まである青いコート、それにたぶん風を模している柄に青い宝石がついているレイピアが右手にある。腰辺りに鞘もある。

ファイア「でも・・・なんでレイピア?」

レナ>>それはですね、呪文の各属性を剣に宿して攻撃できるようになっているんです。<<

ファイア「(質問に答えてない・・・)ほえー・・・ということはやりようによっては3〜4個の属性を合成させて攻撃できるの?」

レナ>>できますが・・・リンカーコアの負荷がものすごいですよ?属性同士の相性とかもありますし。あ、あと、基本的に私無しで呪文詠唱しなくても魔法使えますが、私を介して無詠唱や私を介し

て詠唱するのと比べると威力が落ちますね。まあでも魔力にものを
いわせるとかは話が別ですが。<<

ドラクエの呪文って負荷があるんだ……。というかりんカーコア
ってなんだろう？

ファイア「へえー……。あ、でも剣を杖として詠唱するの？」

レナ>>いや儀式魔法や詠唱する余裕がある場合は私を変形してモ
ードを変えて魔力効率を上げることが出来ます。杖に変形する場合
はモードロッドで変形できます。またレイピアにはモードブレード
です。ちなみに起動時はいつもブレードモードです。<<

ファイア「まあ練習して覚えていけばいいかな。……。とりあえず魔
法使いたいから使っていていい？」

と、空き缶を切り株の上に置きながら言うと、

レナ>>はい、分かりました。どの呪文を使いますか？<<

ファイア「とりあえず初歩的なメラで。」

レナ>>詠唱は自分で決めてください。<<

ファイア「わかったー……。炎よ！」

空き缶を狙ってメラを撃つてみると空き缶からそれて地面に当たった。

ファイア「やったー！魔法が使えた！命中はしなかったけどうれしい！！」

レナ>>百発百中になるまで練習しましょうね？<<

ファイア「うん！！」

レナ>>日も落ちてきてますし今日はこれくらいにしましょう。<<

・・・ほんとだ。あたりがオレンジ色にそまってるや。

レナ>>明日からビシバシ基礎能力を高めていきますからそのつもりで。<<

ファイア「はい。」

・・・リンカーコアのこと聞くの明日でいいか・・・。

side out

三話 初めての魔法（後書き）

というわけで遅れてすいませんでした！！（ジャンピンググ土下座

ファイア「なんでデータ飛んだの？」

保存せずにメモ帳切ったっばいです・・・orz

ファイア「バカでしょ・・・。こんなバカな作者の駄文でも今後よろしく願います！」

四話 キングクリ（ry

（sideファイア）

いきなりですがレナを起動してからさらに5年たちました。

- - キングクリムゾン！！

・・・なにいつてるんだろつかこの駄作者は・・・スルーがいいよね・・・

- - あ、まってwスルーしないでw

で、私はいまなにをやってるのかというと・・・、

レナ>>マスター、集中してください。制御が乱れています。<<

ファイア「あ、ごめん。」

メラを20個ほど展開してその長時間維持をしています。これが意外と大変で・・・

……ドゴンッ！

あ、3つほど制御から離れてあらぬ方向に飛んでいった地面に当たった……

レナ>>15個ならまだ制御できますが……、これ以上は無理ですかね……?<<

あ、ちなみに誘導弾はメラ系、無誘導弾はヒヤド系になってます。中級呪文までなら無詠唱ができますが上級と最上級は詠唱が必要です。……、レナがいないと魔力を思いっきり持ってかれます。儀式魔法は負荷がものすごいから15歳までは呪文覚えるだけみたいです。剣技は我流剣術に組み込んで練習中です。」

レナ>>なにいつてるんですか？マスター。<<

ファイア「え？声に出てた？」

レナ>>はい。バツチリと。<<

……は、はずかしい……////

- - - - -

練習を終えて家に帰ってくると・・・

「????」がう!!」

ちっちゃいトラが飛び掛ってきました。

ファイ「ちょっと！落ち着きなさい、レオ。」

2年ほど前にレナが、

レナ>>今日は使い魔を召喚しましょう。<<

と、突然言い放って使い魔を召喚したら、ベビーパンサーがでてきました。とりあえず、ものすごく懐かれたのでレオという名前をつけて可愛がっています

それにしてもこの子キラパンサーに成長するんだろっか・・・？
成長するなら陸での機動力がすごいとおもっなあ・・・

レオ「がう！」

・・・ピカッ！！ポフンツ！！

え？レオがいきなり発光して人型に・・・

ファイア「え？え？ふええええええ！？」

レオ「ご主人の魔力ちよつともらって変身できた」

レオの外見は7歳くらいの男子で髪は赤くてちっちゃいとさかみ
たいになってる。顔は無邪気そうな笑顔を浮かべている・・・かわ
い／／／／

レオ「改めてヨロシクね？ご主人。動物モードだといえなかったの。
」

ファイア「うん。よろしくね。」

side out

四話 キングクリ（ry）（後書き）

時系列的にはA・s終わってるよ

ファイア「キングクリで飛ばすとは・・・さすが駄作者」

ひどい！

ファイア「というかレオが登場&擬人化って・・・」

つい魔が差して・・・テへ

ファイア「気持ち悪い！！」

ガン・・・――

ファイア「作者が落ち込んだけどまあいいか。ご意見ご感想お待ちしております」

五話 空港火災（前書き）

というわけでまたまたキングダムゾンズです・w・

フィア「メラガイアー!!」

ぎゃああああああつ

フィア「まったく・・・それではどうぞ!」

五話 空港火災

Sideファイア

今私は空港にいます。

・・・ドゴオオオオオンッ！！

レナ>>プロテクション<<

おっとあぶないあぶない。

なんでこんなことになってるのかとじつと・・・

私がミッドに用事があって自分の出身世界からミッドに来る

何かが爆発した音がする

火災発生

私は近くにいた一般人にオクルーラをつかって助ける

ほかに人がいないか探す　　いまここ

あらかた探し回って助けたからもう居ないとおもっただけど・・・
なんかまだいるような気がするんだよね

『ぐすっ…熱いよお…』

子供の泣き声！？・・・こっちか！！

イオで子供に当たらないように周りを飛ばすと、青い髪の女の子が
いた

ファイア「大丈夫？」

『ぐすっ…お姉ちゃん…誰？』

私は女の子と視線をそろえるようにしゃがむと

ファイア「私は君を助けに来たんだよ、・・・この熱い中良く頑張ったね。」

そう言って頭を撫でてやると少しだけホッとした表情を浮かべた

「ここは崩れそうだな・・・さっさと逃げようかな」

ファイア「転移するからしっかり掴まってね。」

女の子がコクツと頷いたのを確認して女の子を抱き上げ詠唱する

ファイア「我を光の下に・・・リミット！」

空港の外の人のいないところに転移する

ファイア「ねえ、君、名前は？」

女の子「スバル・・・」

ファイア「スバルちゃんだね・・・私は・・・って眠っちゃったか」

安心した様に腕の中で眠るスバルちゃんの頭を撫でながら空港の外を歩いてると

????「スバル!」

声が出たので振り返ってみると壮年の青年がいた。

????「俺はゲンヤ・ナカジマ、その子の父親だ。」

ファイア「そうですか。空港から私が見つけて転移で出てきました。」

ゲンヤさんにスバルちゃんをわたしながらいうと

ゲンヤ「ありがとう。……えっと、」

ファイア「あ、私はファイア・クローディアです」

ゲンヤ「ファイアさんありがとう。」

ファイア「いえいえ……火災がやばいかな……ちょっととめてきます」

ゲンヤ「え!?!おい!?!」

ゲンヤさんが静止を呼びかけたけど気にしない。

ファイ「ゲンヤさん、大規模広域魔法使うので退避させてください。これが範囲です。」

レナにいつてマヒヤデドスの範囲を見せる。

ゲンヤ「・・・わかった。>全員に通達!!大規模広域魔法が飛んでくるぞこの範囲外に退避しろ!!<」

ゲンヤさんが通信してるうちにロットモードに変えて魔法陣を張り巡らせる。

ファイ「フルドライブ!!・・・すべてを凍らせ!氷の刃よ!マヒヤデドス!!」

空から無数の氷の刃が降り注ぎ炎を押しつぶして消火する!!

ファイ「こんなものかな・・・」

ゲンヤ「すげえな・・・協力感謝する。」

「ファイア」では私はこれで・・・ルーラ」

転移する時に何か言ってたけど気にしない。

｝side out｝

六話 ミッドでの幼児・・・じゃなかった用事(前書き)

ファイア「消える作者!!」

ちょwwまだそれ設定段階の呪文wwwwww

ファイア「問答無用!!!」

ぎやあああああああああ・・・

六話 ミッドでの幼児・・・じゃなかった用事

（sideファイア）

さて・・・、巻き込まれたから救助したけど、管理局に見つかる
説明とかで面倒なことになりそうなんだよね・・・。だから転移で
逃げただけだね。

ファイア「ん？」

なんか青いボディラインにぴっちりしたスーツ着てる女の子がアタ
ツシユケース運んでる・・・。

・・・まあスルーでいいかな。

ファイア「レナ、あたりに管理局員の魔力反応ある？」

レナ「>>少しお待ちを・・・、サーチャーが周りを飛んでますね。
私たちを監視してるっばいですがどうします？<<

どうしようかな・・・。あ、そうだ。これ試してみるかな。

ファイア「レナ、威力を極限まで減らしたイオでフラッシュ起こしてその間にルーラで逃げれる？」

レナ>>(ちょっとまってください……。実現可能です。)<<

さてと、逃げ出す方法も分かったしさっさと逃げようかな。

ファイア「・・・光よ！イオ！（ボソツ）」

・・・カッ！！

閃光が周りを照らしているうちにルーラを詠唱しないと・・・

ファイア「私の思う場所へ！ルーラ！」

私がおもっていた場所のクラナガンの中央にある人気のない公園に転移する。

ファイア「ふー……。まだ管理局とは関わりたくないしね……。裏

で黒いことやってるし私のことばねるとモルモットにされそうだし・
」

レナ>>そういえば今回ミッドに来たのは、陸士訓練学校に通うた
めでしたっけ<<

ファイア「そだね。父さんのコネでミッドで部屋を借りれたし・
がんばらないとね。」

レナ>>【陸士訓練学校いなくても十分強いのですがね】<<

ファイア「どうしたのレナ、急に黙ったりして。」

レナ>>いえ・・・、少し気になることがありまして。陸士訓練学
校でスクウェア式を使うのですか？<<

ファイア「そのつもりだけど・・・、どうかしたの？」

レナ>>いえマスターの術式が珍しいというか特殊なので公にして
いいのかと・・・。<<

ファイア「あ。」

レナ>>忘れてましたね・・・マスター。<<

ファイア「いや忘れてたわけじゃ・・・。」

レナ>>ではなんでもってるんですか<<

グハッ！・・・あうゝ正直に言おう・・・

ファイア「すいません。わすれてました。」

レナ>>まあいいです。こんなこともあるつかとミッド式が私で使えるようにお父様にソフト入れてもらいましたから<<

ファイア「父さんいつの間に・・・、でもありがとね。また今度あった時にお礼言わないと。」

レナ>>仕様マニュアルもありますし訓練学校入学まで時間がありますから基礎をみっちりとやりますよ？マスター<<

ファイア「あはは・・・お手柔らかにお願いします・・・」

レナ>>善処します・・・！？ 管理局員の魔力反応を感知！！空から飛んできます！！<<

ファイア「え！？・・・レナ魔力隠蔽Bランクまでかけて」

レナ>>了解しましたマスター。視認距離にはいりました。<<

ファイア「あれは・・・だれだろ？」

みえたのは、金髪ツインテールに黒いバリアジャケットを身に着けた女の子だった

ファイ「フェイト・T・ハラオウンだと……レナ、ステルス最高レベルで展開」

レナ>>「了解しました<<

フェイトさんがさっきまでいた地点の上空に到着すると

フェイト「だれもないね……バルデッシュ反応は？」

バル>>「ありません、サー<<

と話していた……。感知されていないみたいだし物音立てずに逃げますか。

side out

六話 ミッドでの幼児・・・じゃなかった用事（後書き）

ファイア「作者はなぜか黒焦げてるので今回は私と」

レオ「ボクでやるよ〜!」

ファイア「相変わらずのgggg感・・・あとでもう一発食らわせるか・・・」

レオ「作者さん大丈夫かな〜」

ファイア「まあ大丈夫でしょ。じゃあ締めるよレオ」

レオ「うん!まったね〜!」

七話 昇格試験（前書き）

というわけで陸士学校はすっぱじましました。それではどうぞー！

七話 昇格試験

Sideファイア

新暦75年ミッドチルダ。

試験を受けるためファイアは廃ビルの上にいた。

今は試験を受けている二人組が終わるのを待っているところで、どうやらその二人は残り数秒の所でゴールしたようだった。

ファイア「いよいよ、だね。」

レナ「>>ええ、ミスしないようにして下さいね、次の試験は半年後ですから。」

ファイア「はいはい」

レナ「>>はいは一回！・・・始まるようですね<<

レナがそういうとファイアの前に大きなモニターが出てくる。モニターには一人の女の子が映っていた。

「???」
「こんにちは」
本日の試験官を勤めさせていただくリインフ

オースツヴァイ空曹長です。よろしくですよ」

ファイア「よろしくお願いします」

リイン「ファイア・クロードイア二等陸士。保有している魔導士ランクは陸戦Cランク、本日受験するのは陸戦魔導士Bランクへの昇格試験で間違いないですよね」

ファイア「間違いないです」

リイン「ファイア三等陸士はそこからスタートして各種に設置されたポイントターゲットを破壊、もちろん破壊してはダメなダミーターゲットもありますからね、妨害攻撃に気をつけて全てのターゲットを破壊、制限時間内にゴールを目指して下さいです。何か質問は？」

リインフォーオースツヴァイ空曹長が淡々と試験の説明をしていく。

ファイア「ありません」

リイン「それではゴールを目指して頑張ってくださいね」

そう言い終わるとモニターの画面が変わりスタートまでのカウントがされていって・・・スタートの合図になった。

ファイアはすぐに走りビルから飛び降りると同時にレナをセットアップした。

「ファイア「ロッドモード!」!」

レナ>>了解しました<<

次の瞬間ファイアの手には身の丈ほどの大きな杖が現れ、服装が青をベースにしたバリアジャケットになった。そして、空中で詠唱する。

ファイア「かの者に風の加護を!ピオラ!炎よ!メラ!」

ゴオオオオオオオ!

ファイアが加速魔法と火の玉を20個ほどだす。ファイアは段違いに上がり火の玉の一発一発が無駄なくターゲットに当たる。しかし、ダメージターゲットには当たってはいなかった。

ファイアは一度もとまらずにさらに加速魔法を使っていく。

派手な行動をしたので、ターゲットがファイアの存在に気づき攻撃してきたがファイアが速過ぎて当たらない。ファイアが走りながらレナをロッドモードからブレードモードに変形させ、魔力刃を発生させる。

ビルにいるターゲットに向かって走る。ファイアが速過ぎて捕らえられないためターゲットからするとかなり当てにくい敵だろう。ファイアは、自分に当たりそうな攻撃だけを弾きながら、ビルの中に入る。

ファイア「真空斬り！」

そう呟くと、レナの魔力刃に風が纏い付く。

ファイア「はあ！！！」

ファイアがレナを振るうと次の瞬間ターゲットは、全て破壊された。

ファイア「こんなものかな、レナ索敵よろしく」

レナ>>了解しました<<

といいながらも、ファイアは風でターゲットをなぎ払う。・・・ダメージに当てずに。

ファイア「さて、ここもミス無しにクリアでいいかな」

レナ>>次はこの上です<<

ファイア「確か集中砲火がくるんだっけ」

この上の場所はなかなかの難問で、今までの受験者は必ず迂回するのが当然だったという。

ファイア「よし、突っ込みますが、レナ、トリック」

レナ>>機械をだませればいいんですね。・・・準備できました<<

ファイア「彼らに惑いを・・・トリック！」

呪文を詠唱しながら飛び出す。そしてターゲットが見える位置まで上がると、ターゲットはすぐにファイアに気づき一斉射撃をしてくるが、ファイアには当たらず、幻影に当たる。レナが索敵しているので相手の居場所が分かる。

ファイア「氷の刃よ！ヒヤダルコ！！」

ダメージゲット以外のターゲットは全て氷の刃に撃ち抜かれ撃破された。

ファイアはターゲットがないことを確認すると走り出した。

この試験を見ている人物がリインフォース以外にも五人いた。

まずヘリの中から映像を見ている、フェイトとはやて。ファイアの前に試験を受けていた二人。そして、なのはだった。

彼女達は、ちよつと・いやかなり驚いていた。

ファイアの前に試験を受けていた二人は陸士学校で見た記憶があるが地味だったためこの映像を見て驚いていた。ほかの三人は面識がなかったため撃破速度をみてかなり驚いていた。五人は、試験の映像から目が離せなくなっていた。

少し走ると、太陽の光がまぶしい場所へ出た。

レナ>>マスター、エネルギー反応が<<

レナがそう言った瞬間ビルの中から、エネルギー弾が出てきた。なかなか大きく、当たったらかなりのダメージがくる。

それをファイアが跳んで避ける。

レナ>>索敵・・・かなり遠くに大型スフィアがあります。<<

ファイア「面倒だねえ……メラゾーマいくよ！」

レナ「>面倒つて……まあいいです、魔力循環補佐機能作動！<<

ファイアの足元にスクウェア式の魔法陣が回転しながら大きくなっていく。

ファイア「爆炎よ！……喰らいなさいメラゾーマ！」

半径1m以上もある巨大な火の玉が最近導入されたという大型のファイアに向かって飛んでいく。

ドゴオオオオオオオオオオオオオン！！！！

スファイアはバリアを張ったようだが圧倒的な火力によりバリアが一瞬で消滅しスファイアが破壊された。

ファイア「レナ残り時間は？」

結構時間を使ったかなとおもっているファイアはレナに慌てて聞いた。

レナ>>時間の余裕がありません。普通に走っても大丈夫です<<
それを聞いたフィアは安心してコースに戻った。後は、ただ走るだけだ。

｝sideout｝

七話 昇格試験（後書き）

ふーがんばった。

ファイ「結構文字数いったね」

まあね、あ、ファイ、君に家族が増えることが決定したよ

ファイ「・・・詳しくオハナシしようか」

ちよそれ決戦奥義・・・ギヤアアアアアアアアアア！

ファイ「来週もよろしくお願いします」

八話 試験後と新部隊の誘い……？

（sideファイア）

私は今とある地上本部のロビーにいます。試験？普通に時間内にはゴールしたよ？

で、今ロビーにいるのが……、

「……？」「部隊名は、時空管理局本局遺失物管理部、機動六課」

「……？」「登録は陸士部隊。FW陣は、陸戦魔導士が主体で、特定遺失物の捜査と保守管理が主な任務や」

とあって、新部隊の説明をしてるさっきの試験の試験官だったリインフォースツヴァイ空曹長と関西弁が目立つ八神はやて二等陸佐、それに横でニコニコしてるフェイト・テスタロッサ・ハオラウン執務官とさっき私の前に試験を受けていたスバル・ナカジマ二等陸士とティアナ・ランスター二等陸士と私の6人（でいいのかな？）スバルとティアナは同期だったし面識はなかったけど話をする時間はあったから自己紹介はしたよ

ファイア「遺失物……ロストロギアねえ……」

スバルは分かってないみたいだけどティアナは六課の仕事が分かったようだね

はやて「広域捜査は、一課から五課までが担当するから、うちは対策専門」

はやて「本題は、ここや。スバル・ナカジマ二等陸士、ティアナ・ランスター二等陸士、それとフィア・クローディア二等陸士」

「「はい」」

三人は、名前を呼ばれたので返事をする。

はやて「私は三人を機動六課のFWとして、迎えたいと考えとる。厳しい仕事にはなるやろうけど、濃い経験は積めると思っし、昇進機会も多くなる。どないやろう?」

レナ>>> (やっぱり新部隊への誘いでしたね。) <<<

フィア「(みたいだね)」

レナ>>> (受けますか?) <<<

フィア「(受けてもいいんだけど・・・なんか隠してそうなんだよね)」

レナ>> (どうするんですか?) <<

フィア「(断る理由がないから受けるよ)」

はやて「スバルは、高町教導官に魔法戦を直接教われるし」

フェイト「執務官志望のティアナには、私でよければ、アドバイスとかもできると思うし」

はやて「フィアは、基礎が出来てるから実戦が沢山できると思うから、レベルアップができる」

フェイト「どうかな？」

それぞれの利点を言うフェイト。

ティアナ「とんでもない・・・というか、恐縮です、といたしますか」

ティアナが三人の代表として意見を言う。余りにも良い話だったので、ティアナの声は少し裏返っている。

????「えーと、取り込み中かな？」

オフィスの方からなのはが来た。手にはいくつかの書類を持ってお

り、試験の結果などが書いてあるのだろう。

はやて「平気やよ」

はやてが、なのはに答える。

なのはは、ファイ達が座っている反対側に座り、試験の結果を言う。

なのは「まず、二人から。二人とも技術はほぼ問題なし。でも、危険行為や報告不良は見過ごせるレベルを越えています」

なのはは淡々と結果を言いその後に、少し説教をする。二人も不合格と判断して、顔を俯かせる。

なのは「だから、二人共残念ながら不合格・・・なんだけど」

「「え？」」

予想外の言葉に、二人は同時に顔を上げる。

なのは「二人の魔法値や能力を考えると、次の試験まで半年間もＣランク扱いにして置くのは、返って危ないかも。と、というのが私と

試験官の共通見解」

なのは「ということですね」

二人の前に書類が出された。

なのは「特別講習に参加するための申請用紙と、推薦状ね。これを持って本局武装隊で三日間の特別講習を受ければ、四日目には、再試験を受けれるから」

書類の説明をして少し厳しく、しかし優しくなのはは、言葉を告げる。スバルとティアナの表情が明るくなった。

なのは「でファイアなんだけど・・・、独自術式使ってるから判断がしにくかったけど、魔力値はA並みにあるし技術も完璧、クリアタイムも過去最速だから問題なし」

なのは「というわけで合格！」

ファイア「ありがとうございます！」

と、ファイアがお礼を言っていると突然スクウェア式の魔法陣が現れる。

はやて「な、なんや！」

ファイア「あ、わすれてた。おいで？レオ」

魔法陣から全長3mぐらいの虎らしきもの・・・キラードンサーのレオが現れる

ファイア「この子は使い魔です。八神二等陸佐。レオ？擬人化」

レオが光に包まれ人型になる

レオ「ご主人〜！忘れるなんてひどいー！！」

ファイア「ごめんね？」

ファイアはレオをひざに置きながらあやまる（レオは120cmくらいなのでひざにおいても邪魔にならない）

スバルは「かわいい！！」とかいっているのを他の5人は苦笑いしながらみていた。

side out

八話 試験後と新部隊の誘い・・・？（後書き）

ふーつかれた。一度ブレーカが落ちてあせった

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5807x/>

・・・リリなのの世界に転生？リリなのってなに？

2011年11月20日19時49分発行